

第一フロンティア生命の経営戦略

第一フロンティア生命保険株式会社
代表取締役社長 金井 洋

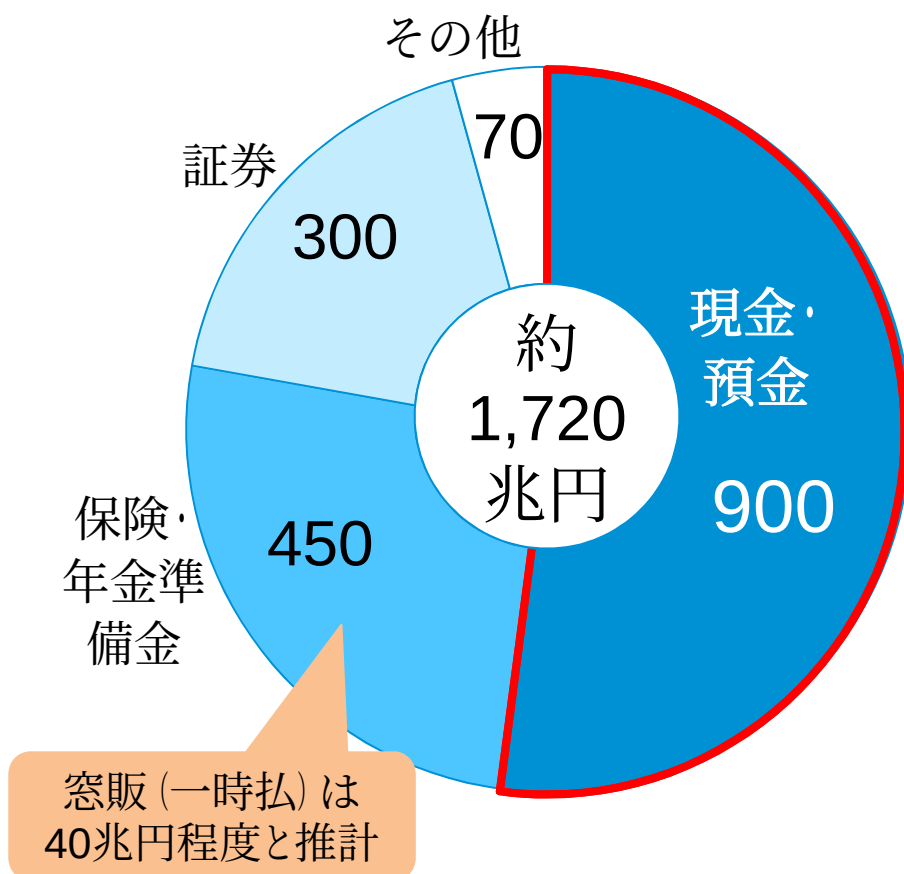


第一フロンティア生命
第一生命グループ

窓販市場の見通し

- ◆ 家計の金融資産1,700兆円のうち、50%以上が現預金として存在
- ◆ 低金利環境の継続に伴い保険窓販市場への流入資金拡大の可能性

家計の金融資産内訳 (2015.6月末時点)



国内低金利の継続

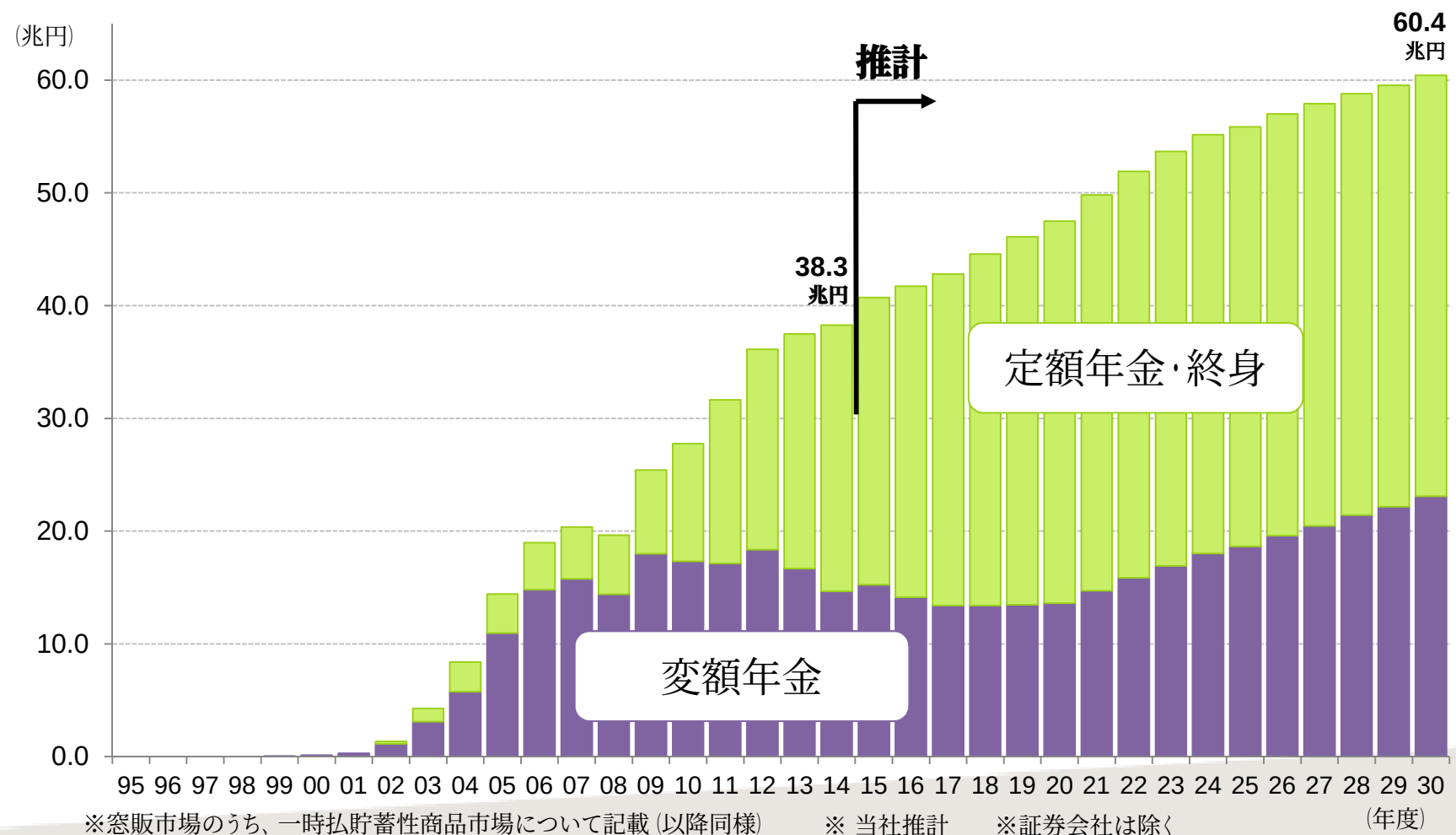
- 金融機関
非金利収入拡大の動き
- 家計
より利回りの高い商品への
ニーズ拡大

現金・預金からの
資金シフト

窓販市場の見通し（ストック）

◆ 保有契約高は60兆円程度まで拡大と推計

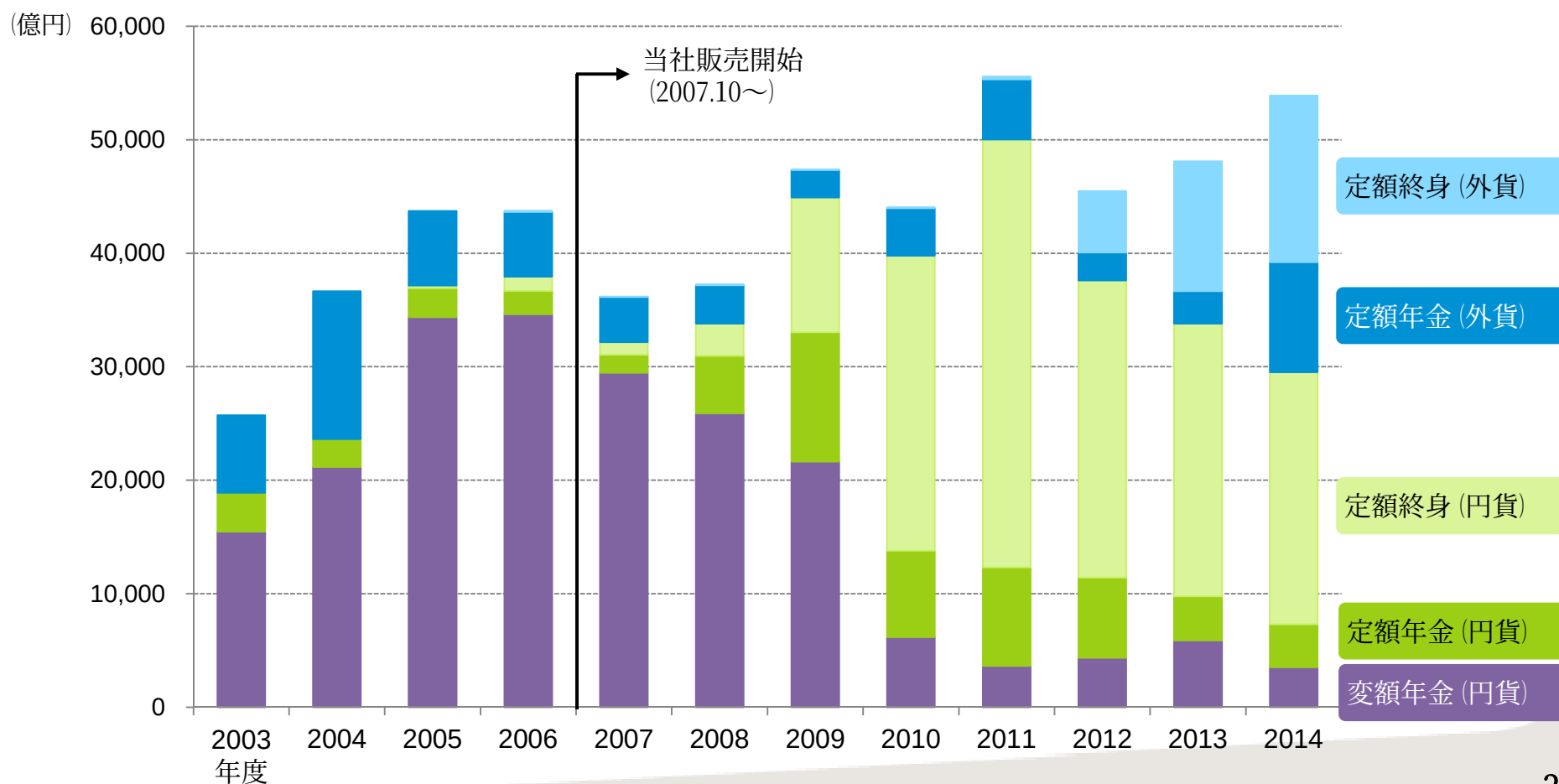
窓販市場規模（保有契約高）



窓販市場の推移

- ◆ 低金利環境の継続により、円貨建商品の販売は引き続き減少傾向
- ◆ 相対的に金利の高い外貨建商品の市場が拡大

商品別販売額推移 (貯蓄性一時払市場)



※ニッキンレポート等をもとに当社推計

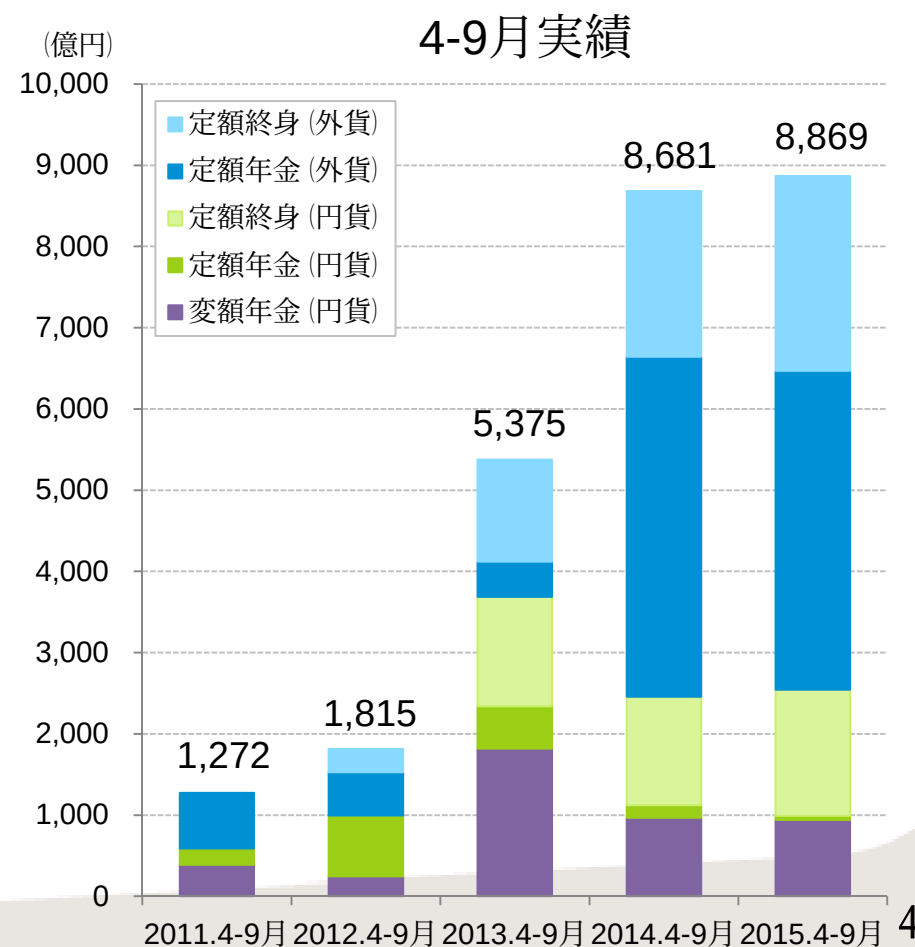
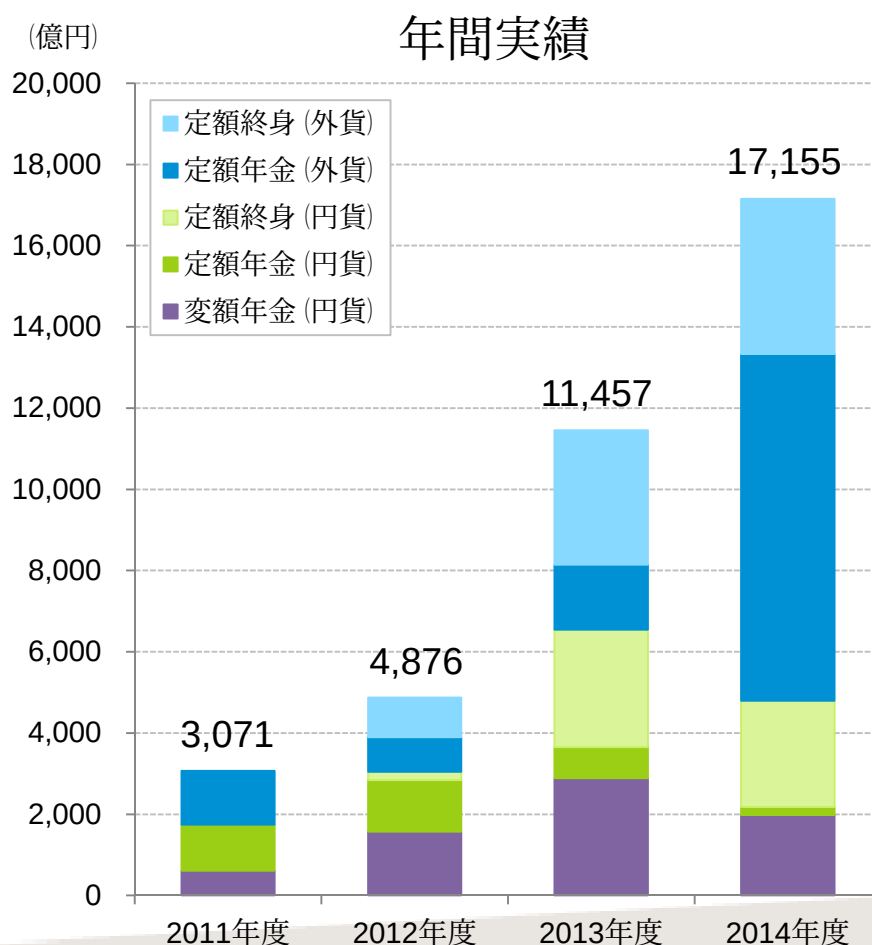
※定額+変額の2階建商品は定額商品に分類

※証券会社は除く

DFL販売実績

- ◆ 2014年度は創業以来最高の販売実績を記録
- ◆ 2015年度も順調に進捗、引き続き外貨建商品が好調

商品別販売実績 (DFL)

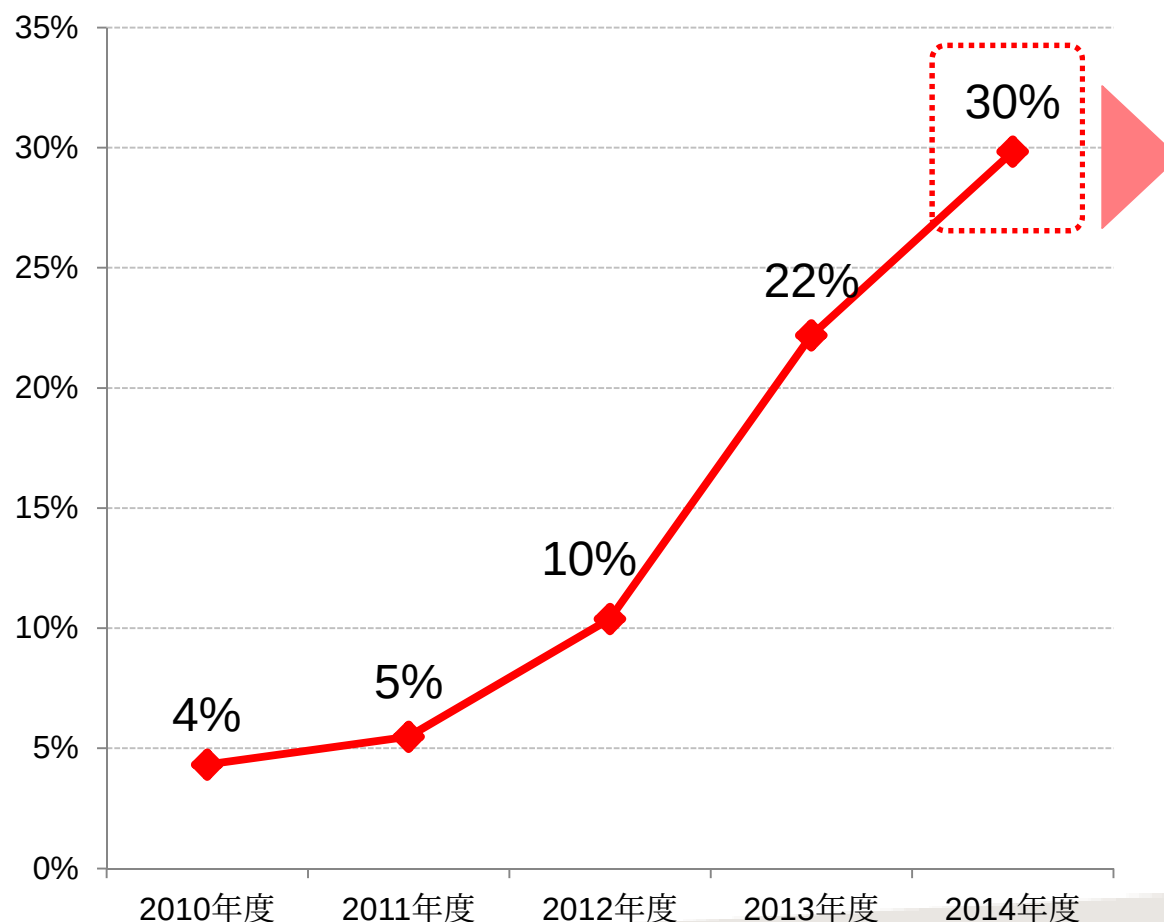


※定額+変額の2階建商品は定額商品に分類

市場シェア

- ◆ 足元の市場シェアは30%、トップシェアを維持
- ◆ 定額年金 (外貨) では2階建商品の伸展により、約80%のシェア獲得

DFL販売シェア (貯蓄性一時払市場)



■ カテゴリ別シェア (2014年度)

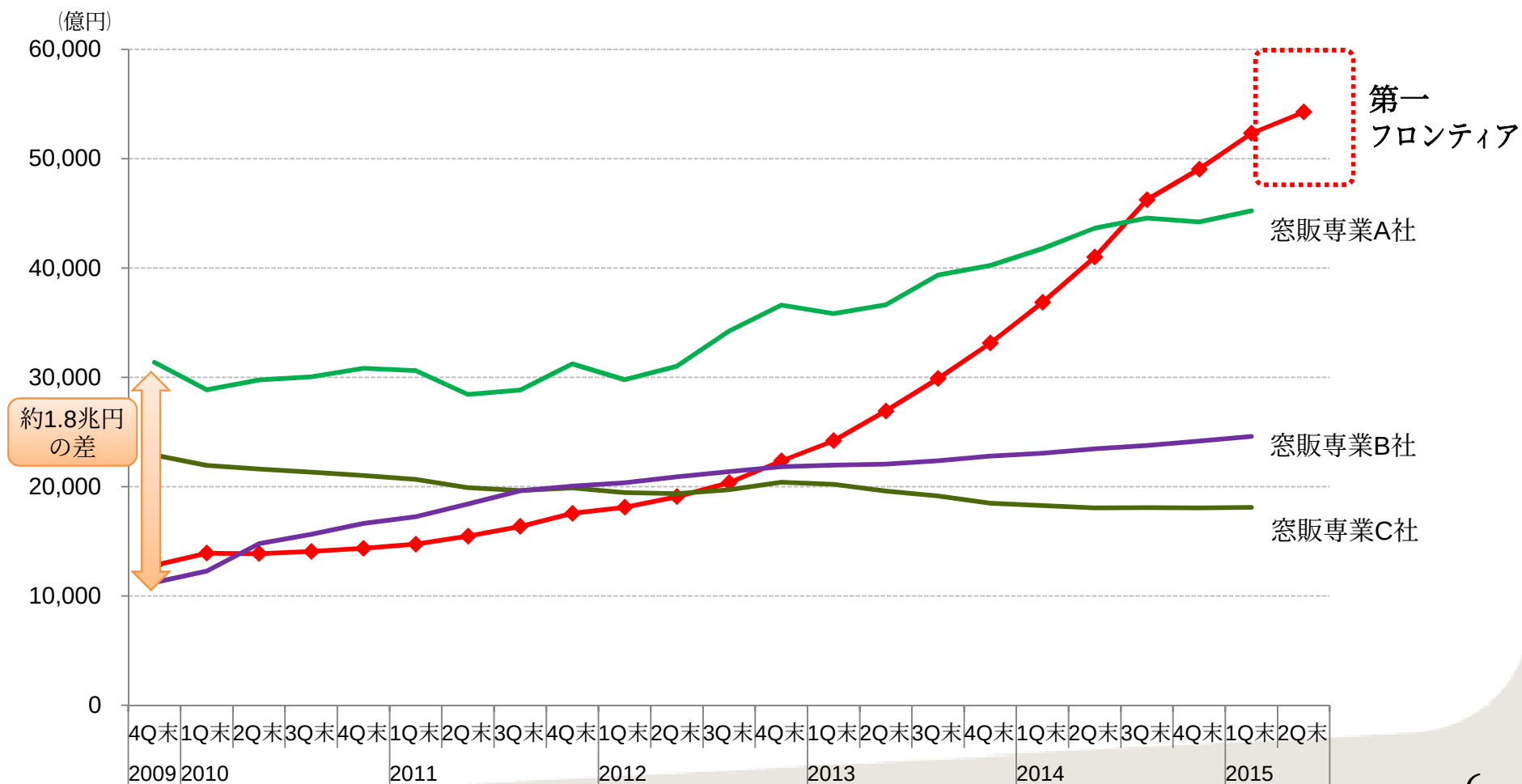
定額終身 (外貨)	約20%
定額年金 (外貨)	約80%
定額終身 (円貨) *	約10%
定額年金 (円貨) *	約 5%
変額年金 (円貨)	約50%

*市場では、MVAなしの商品が中心

保有契約高

◆ 2015年9月末時点で約5.4兆円と、窓販専業生保で第1位の規模

保有契約高 (窓販専業生保)

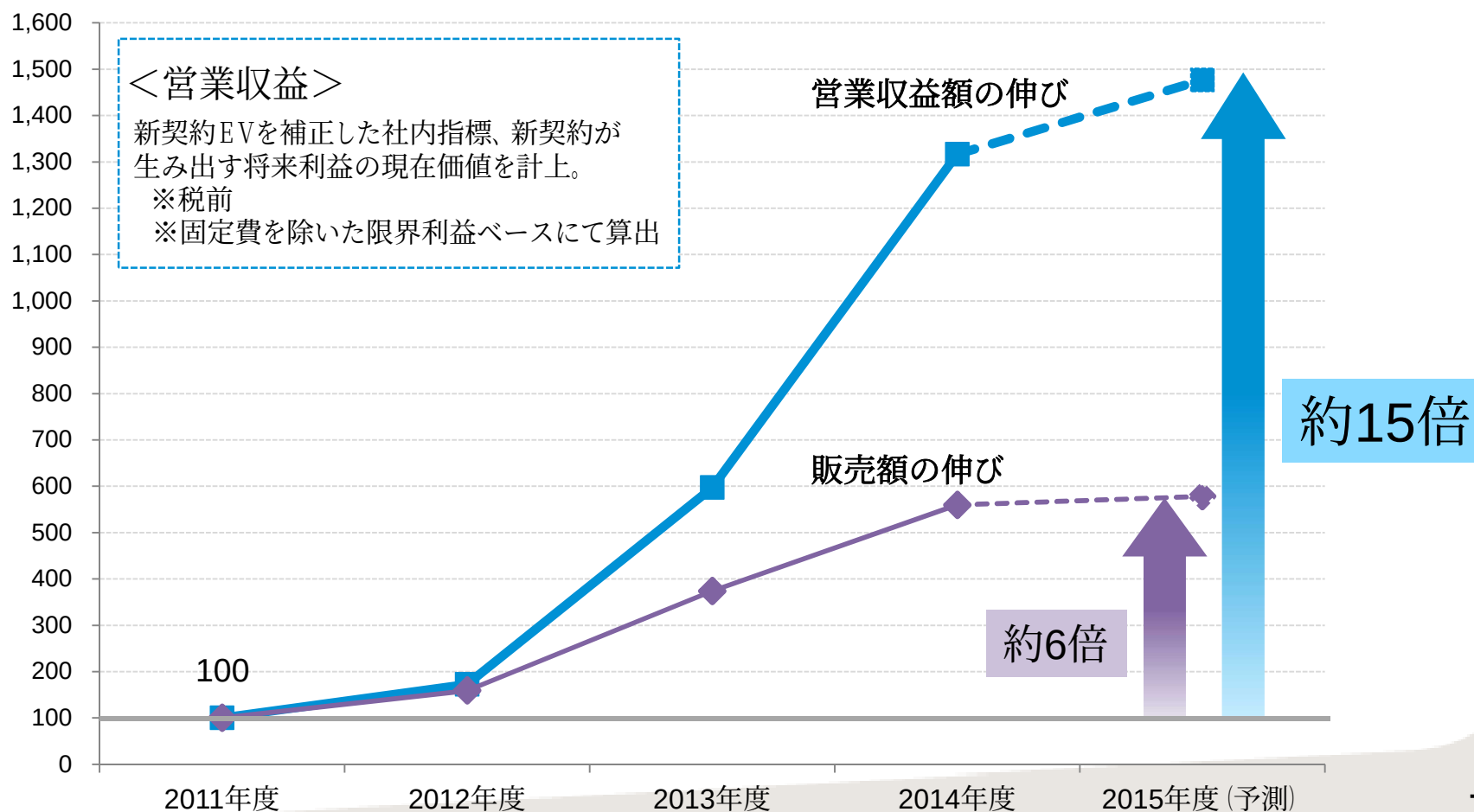


※ 各社決算開示資料

利益生産力

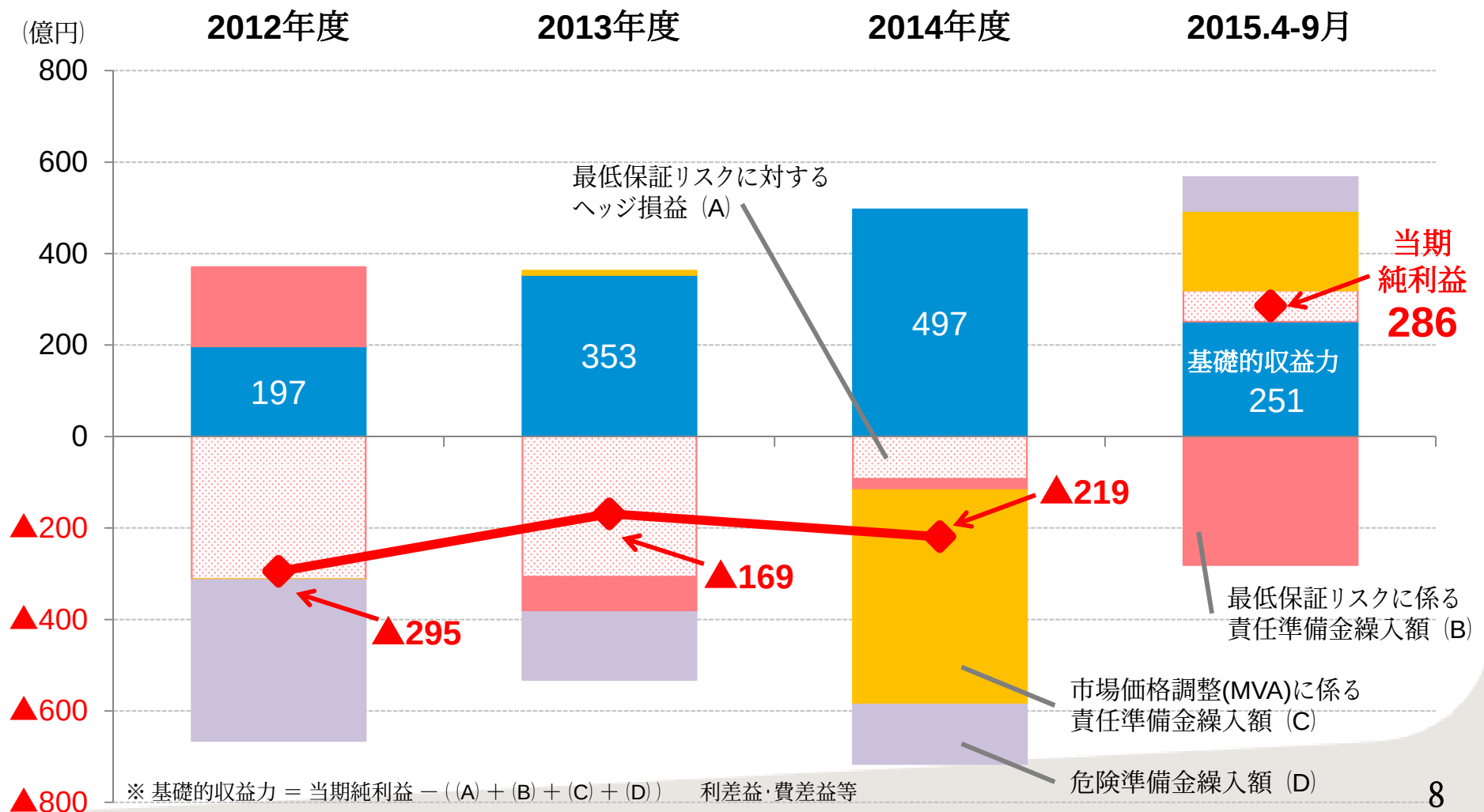
- ◆ 収益性の高い外貨建商品の販売伸展等により、経済価値ベースでの利益生産力は飛躍的に拡大

営業収益額の伸び (2011年度実績=100として指数化)



当期純利益

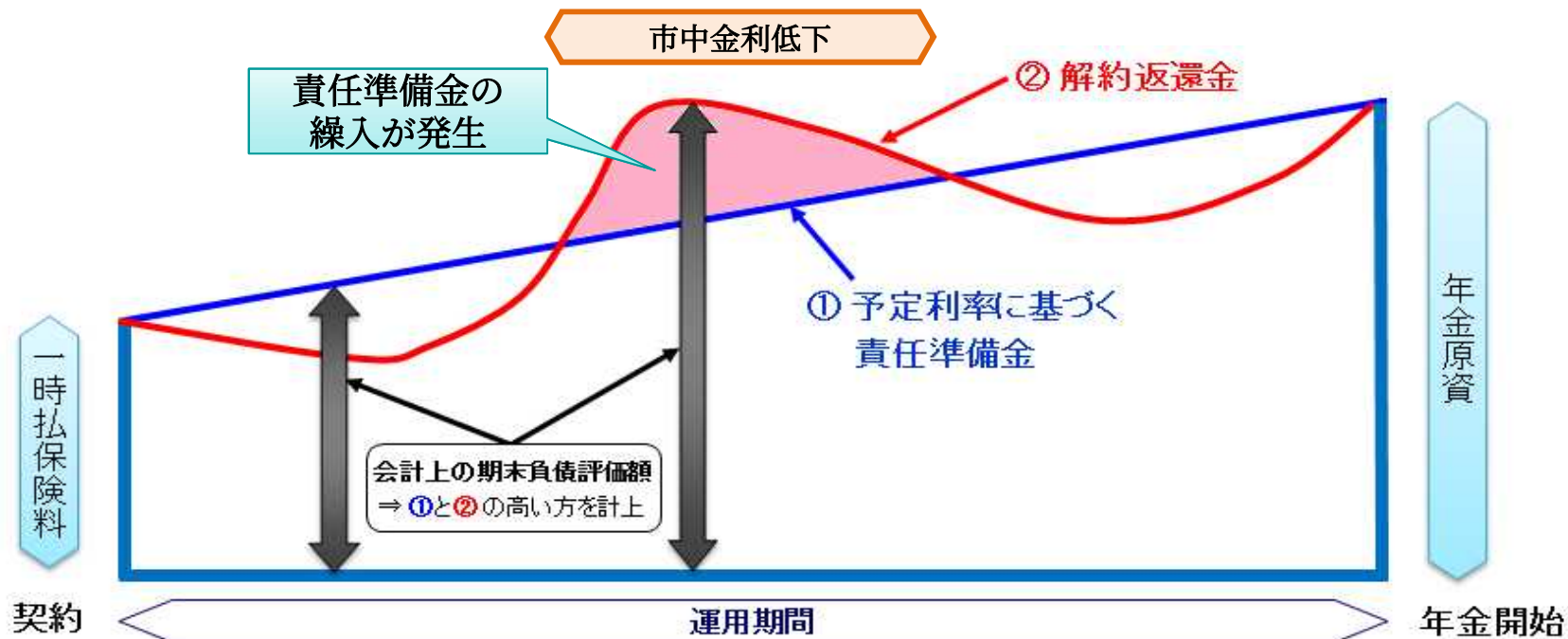
- ◆ 中間純利益は、MVAに係る責任準備金の戻入等により286億円と大幅黒字計上
- ◆ 純利益から経済変動要因・内部留保を除いた基礎的収益力も順調に増加



(参考) 市場価格調整 (MVA) に係る責任準備金

- ◆MVA付き商品の会計上の負債は、「解約返戻金」と「予定利率により定められた責任準備金」の大きい方を計上するルール
→負債サイドにて、金利低下により「解約返戻金」が「責任準備金」を上回る場合に責任準備金の積み増しが発生
- ◆一方、債券価格の上昇分はP/Lに反映されないため、会計上は収支が悪化
実質的な損失ではなく、会計上の評価の一時的な変動
- ◆また、積増後の期間経過や金利が再び上昇した場合には、戻入が発生

【イメージ図 (MVA付個人年金の例)】



金融環境の変動に対するリスクコントロール

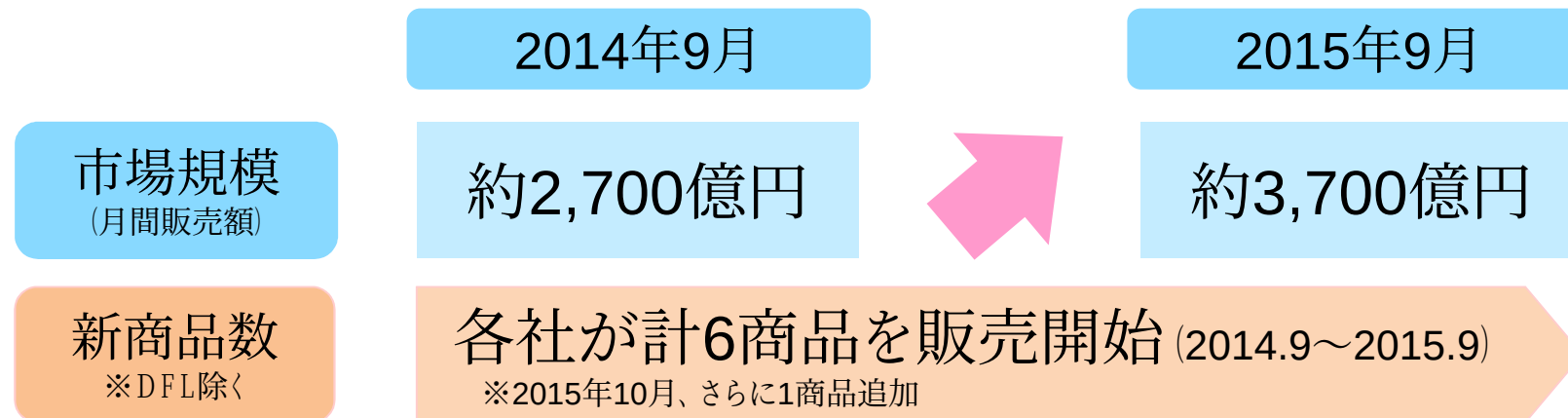
- ◆最低保証リスクや資産負債ミスマッチリスクのコントロールの観点で再保険やヘッジ等を活用
- ◆上記の取組みは財務会計へも影響

対象契約	主なリスク	ヘッジ手段	内容	財務会計への影響
変額商品 (既契約)	最低保証 リスク	ヘッジ運用	先物等を利用して最低保証の 変動に対応したヘッジポジション を日々構築	金融環境変動時に最低保証に係る責任準備金 の増減が発生する際、ヘッジ損益が計上される ことにより、収支の変動を抑制
変額商品 (新契約)		再保険	当社が引き受けた保険契約上 の責任を再保険会社に移転	金融環境変動時に最低保証に係る責任準備金 等の増減が発生せず
定額商品	資産負債 ミスマッチ リスク			金利変動時にMVA積増等の増減が発生せず
	マッチング 運用	適切に資産と負債の将来キャッ シュフローを把握して運用ポジ ションを構築	責任準備金対応債券も活用しつつ、金利変動等 による収支や純資産への影響を緩和	

競合環境

- ◆ 外貨建商品市場における競合環境が急速に激化する中、当社も新商品を拡充しつつ、変額・円貨建商品市場への販売分散を推進

外貨建商品市場の状況



<当社の取組み>

■外貨建商品の拡充

- ・新商品(2015.7月)・・・ 商品改定(2015.4月 & 10月)・・・

■変額商品、円貨建商品の拡充による販売ポートフォリオ分散

- ・新商品(2014.10月)・・・ 商品改定(2014.10月)・・・
- ・ // (2015. 2月)・・・ 商品改定(2015. 4月)・・・

商品ラインアップ

- ◆ 全8カテゴリ・12商品と、業界随一のラインアップを展開
- ◆ 今後もお客さまニーズや市場環境の変化を捉え、迅速な商品開発・改定を実施

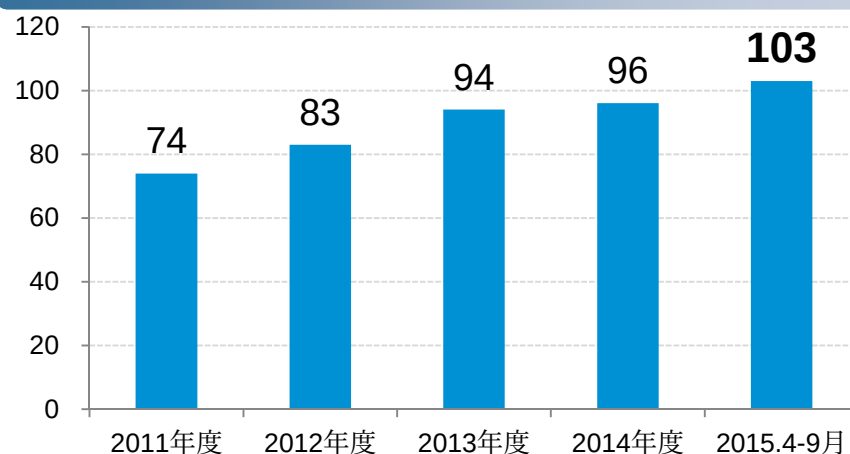
2015年11月時点

	定額		変額	
	円貨	外貨	円貨	外貨
年金	 プレミアムハピネス 生存保障重視型個人年金保険	 プレミアカレンシー・プラス+ 通貨指定型個人年金保険 (米ドル・ユーロ・ポンド)	 プレミアポケット 年金原資保証型変額個人年金保険 (14)  プレミアステップ2 年金原資運用実績連動保証型変額個人年金保険 (11)  プレミアタッチ3 年金原資保証型変額個人年金保険 (12)	 プレミアジャンプ・年金 (外貨建) 年金原資確定部分付変額個人年金保険 (通貨指定型)
終身	 プレミアレシーブ (円建) 定額年金付積立利率変動型終身保険  プレミアギフト (円建) 積立利率変動型終身保険	 プレミアレシーブ (外貨建) 定額年金付積立利率変動型終身保険 (通貨指定型)  プレミアギフト (豪ドル建) 積立利率変動型終身保険 (豪ドル建)	 プレミアジャンプ・終身 (円建) 積立利率変動型定額部分付変額終身保険 (15)	 プレミアジャンプ・終身 (外貨建) 積立利率変動型定額部分付変額終身保険 (通貨指定型)

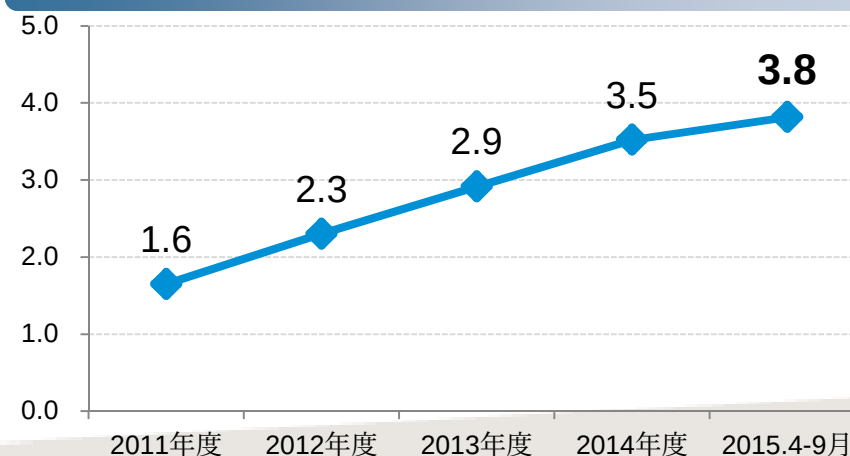
代理店の開拓・深耕

- ◆ 商品委託中の代理店数・商品委託数ともに順調に増加
- ◆ 引き続き、提携販売先の拡大と、既存代理店との更なる関係強化推進

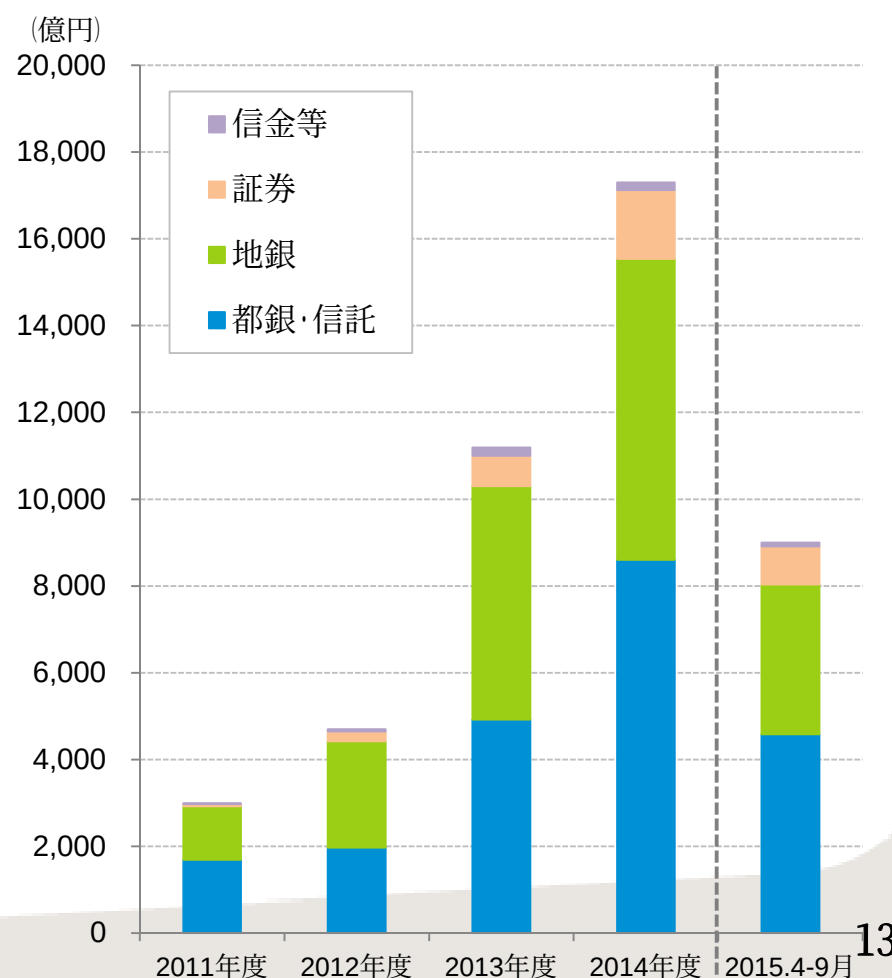
商品委託中の代理店数



1代理店あたり商品委託数



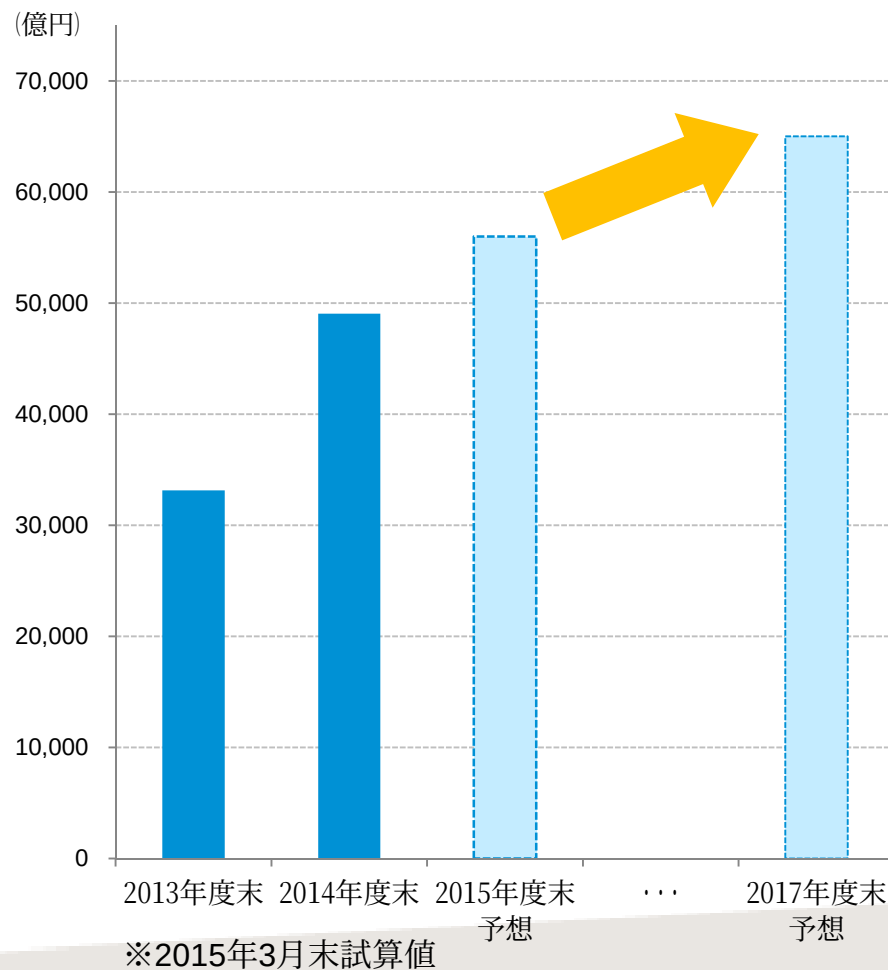
チャネル別販売額



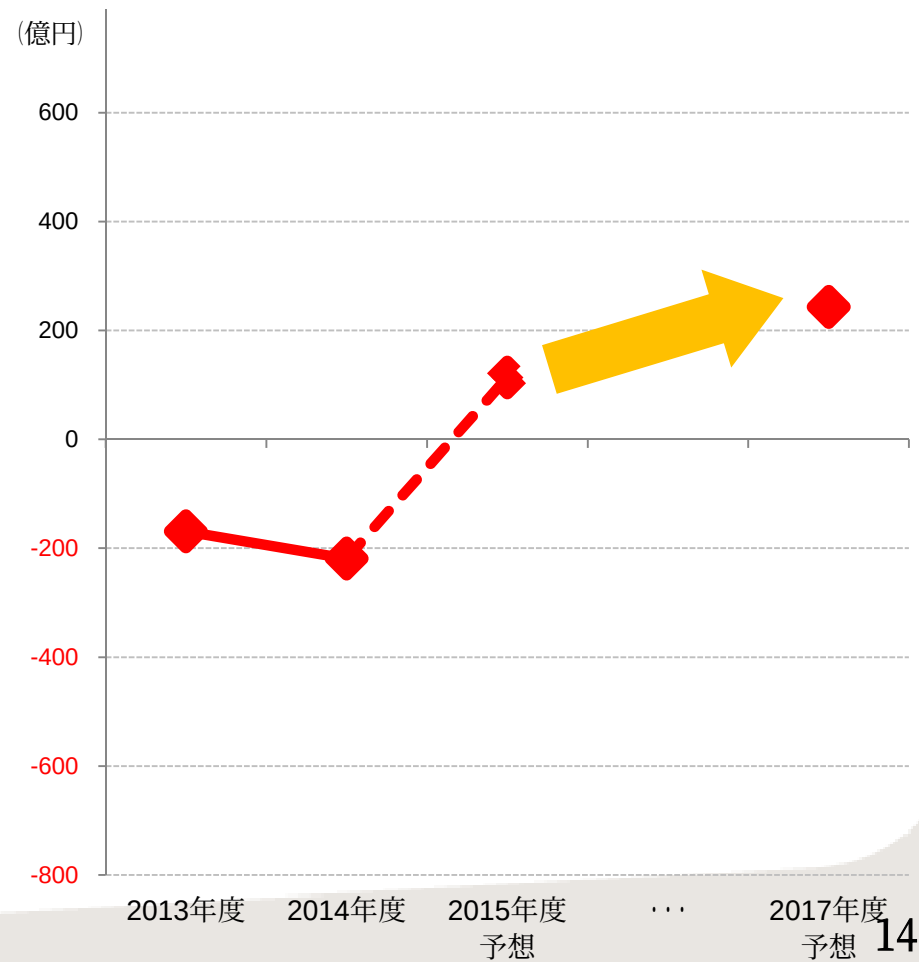
事業計画

- ◆ 順調な保有の積み上がりにより、今年度の単黒化、その後の更なる利益拡大を計画

計画 (保有契約高)



計画 (当期純利益)



窓販日本No.1に！ (貯蓄性一時払市場)

お客さま・パートナーからの信頼の獲得

磐石な健全性の確保

高効率な経営の追求

環境変化に耐えうる内部管理態勢の構築

スピード感、一体感のある
組織風土の更なる醸成

深い知識と広い視野を持ち、
挑戦し続ける人財の育成

持続的成長を支えるERM態勢

本資料の問い合わせ先

第一生命保険株式会社

経営企画部 IR室

電話：050－3780－6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社（以下「当社」という。）は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限られませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。